

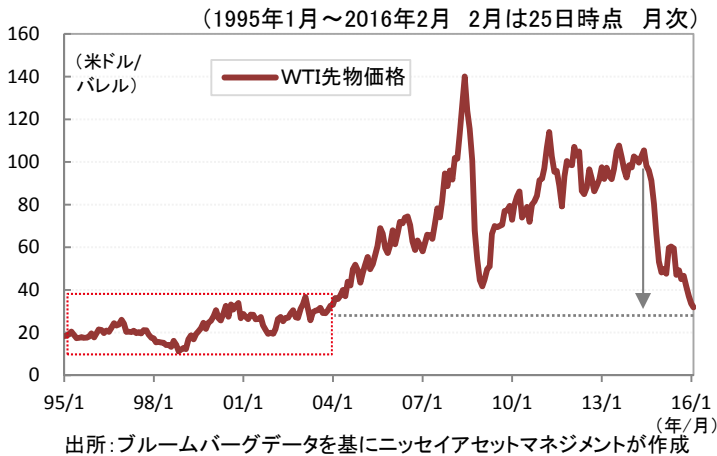
金融市場NOW

原油価格の動向と今後の見通し

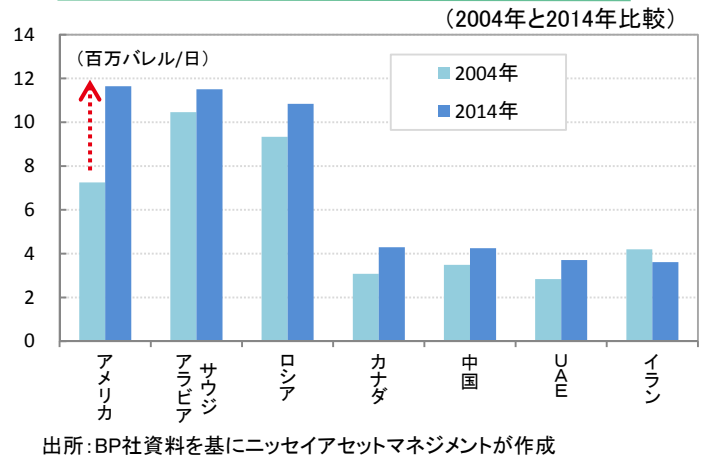
原油価格(WTI先物価格)の動向

原油価格は足元、2014年半ばから約7割下落した水準でもみ合っています【図表1】。原油価格急落の主な要因として、新興国の景気減速による需要減、シェール革命(米国)に伴う供給増等が挙げられます【図表2】。

図表1: WTI先物価格



図表2: 主要原油生産国の生産量比較



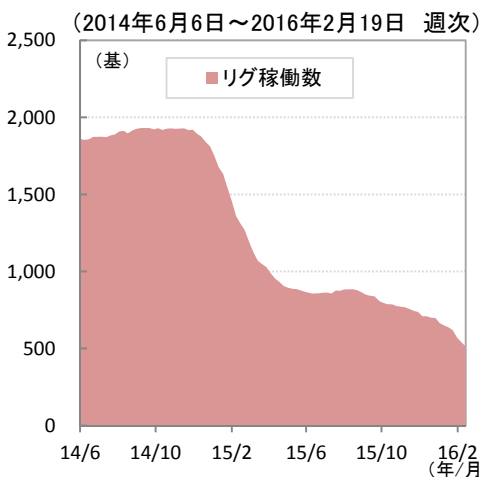
今後の見通し

足元の原油価格は本格的な上昇期に入る前の2005年以前の水準まで下落しており【図表1】、価格面での調整はかなり進んだものと考えます。今後更なる下落が生じる場合は、協調減産に向けた動きが活発化する可能性もあります。米国のリグ(石油掘削装置)稼働数減少【図表3】は供給調整につながりそうです。一方、米国における原油在庫は同価格が急落した2015年を1億バレル程度上回る水準で推移しており【図表4】、原油価格反発の重荷になりそうです。

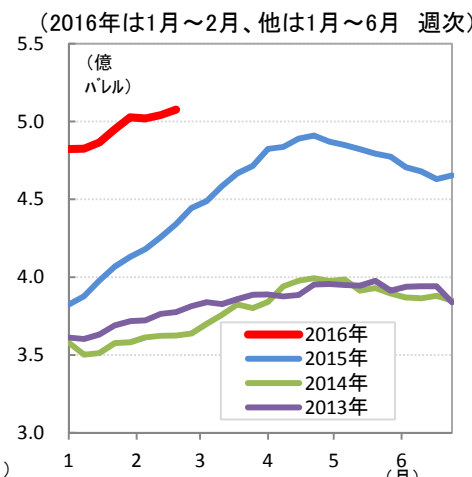
当面の原油価格は、1バレル30米ドル近辺を中心に、協調減産に関する思惑等に左右され、値動きの激しい展開が続くものと考えます。

尚、IEA(国際エネルギー機関)は、2017年は需給(供給には在庫分含まず)がほぼ釣り合うものの、積み上がった在庫の影響等により、価格低迷は長期にわたるとの見通しを示しています【図表5】。

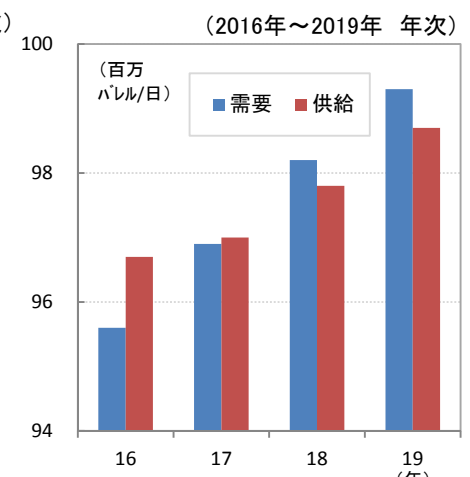
図表3: 米国リグ稼働数



図表4: 米国原油在庫



図表5: IEA原油需給見通し



●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。